

## ArcDR<sup>3</sup> Forum Vol.1: New Agendas for Regenerative Urbanism が開催されました(2020/6/27)

テーマ：ArcDR<sup>3</sup>、APRU マルチハザードプログラム、都市防災、仙台防災枠組、災害リスク軽減、レジリエンス  
場所：Zoom オンライン

21世紀に入り、地球規模の気候変動、自然災害の多発化、さらには大規模感染症の拡大などにより、地球上のあらゆる地域で大きな影響と被害が生じており、科学・技術的、社会的、環境的な様々な課題に直面しています。繰り返される災害に対して、被害を軽減し安全で安心出来る社会構築が最も大きなテーマとなっています。この解決のためには、増大するグローバルリスクの高まりの中で、建物・都市・環境デザイン戦略を再定義する必要があり、予測不能な状況が生じても被害を最小化し事後も存続できる都市・社会システムを提案していかなければなりません。

今年、東北大学災害科学国際研究所 (IRIDeS) は、カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (UCLA) Architecture and Urban Design xLAB、および日本科学未来館が中核となり、環太平洋大学協会 (APRU) マルチハザードプログラム (注1) と協力して、ArcDR<sup>3</sup> Initiative (Architecture and Urban Design for Disaster Risk Reduction and Resilience、災害リスク軽減とレジリエンスのための建築と都市デザイン) を始動しました。ArcDR<sup>3</sup> Initiative は、2015年に決議された仙台防災枠組を推進しながら災害リスクを軽減し、回復力を高める環境や都市設計に関する知識やアイデアを交換し、様々な提案をするための国際的なプラットフォームです。今回、環太平洋大学での自然災害リスクが高い地域から、11の主要大学 (注2) が参加することとなりました。

Arc DR<sup>3</sup> Initiative のグランドシラバスでは、明確なビジョンを持ったデザインの可能性を提案する建築教育上の協働を高め合い、リスク軽減のための国際基準の開発に向けた最先端のデザイン思考に貢献することを明記しています。そして、キーワードとなる「レジリエンス」を、様々な外力に対しても変化しながら適応しつつ素早く回復する能力と定義づけ、理論 (研究) と実践 (設計デザイン) を効果的に統合することを目指しています。それは、リスクを評価する科学的なアプローチと未来予測の不可能性を理解し、予測出来ることと出来ないことのバランスをとりながら、持続可能であり適応性のあるシステムでなければなりません。こうした思考を「生態的-社会的-技術的レジリエント・シティのための進化的再生システム」の提案に結びつけていきたいと考えています。

先日6月27日 (土) 8時 (日本時間) に、第1回 ArcDR<sup>3</sup> フォーラム「New Agendas for Regenerative Urbanism (進化的再生システムによる都市での新しい課題解決)」が開催されました。今回のフォーラムは継続的な活動中の最初の企画であり、3つのテーマセッション (①地球 (地盤)、風災害と火事、②水災害、③マルチハザード) で、11参加大学によるデザインスタジオ取組の概要が発表され、その模様はYouTubeのライブストリーミングでリアルタイム配信されました。ここでは、「再生都市」および各地におけるその影響について、さらにはCOVID-19による世界的な危機によって再定義される学習環境と教育プロセスの変化を認識し、ArcDR<sup>3</sup> ネットワークを通じたグローバル連携なども議論されました。東北大学からは当研究所の今村文彦所長が阿部仁史教授 (UCLA) と共に開会の挨拶を、工学研究科の石田壽一教授は東北大学スタジオの概要発表を、そして会の終わりには、植木理事・副学長と大隅副学長にご登壇いただきました。また東北大学からのプログラムアドバイザーを工学研究科の小野田泰明教授 (情報管理・社会連携部門 兼任) と当研究所の村尾修教授 (地域・都市再生研究部門) が、運営ホストを泉貴子准教授 (地域・都市再生研究部門) とマリ・エリザベス准教授 (情報管理・社会連携部門) が務めました。次回は2021年3月に仙台で開催する予定です。

(注1) 環太平洋大学協会マルチハザードプログラム

東日本大震災後に発足され、関係大学と災害研究の連携・推進、サマープログラムの開催、シンポジウム会議の定期開催、セイフティー・キャンパス推進などの事業を推進しています。

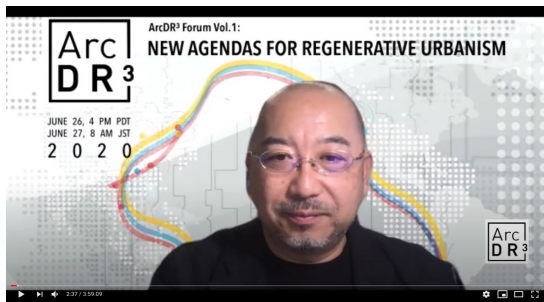
<http://aprumh.irdes.tohoku.ac.jp>

(注2) ArcDR<sup>3</sup> 参加大学:

カリフォルニア大学ロサンゼルス校 (米国) / カリフォルニア大学バークレー校 (米国) / 東京大学 (日本) / 清華大学 (中国) / ワシントン大学 (米国) / メルボルン大学 (オーストラリア) / シンガポール国立大学 (シンガポール) / 香港大学 (香港) / チリ・カトリック大学 (チリ) / 国立成功大学 (台湾) / 東北大学 (日本)

文責：今村文彦 (災害リスク研究部門)、村尾修 (地域・都市再生研究部門)

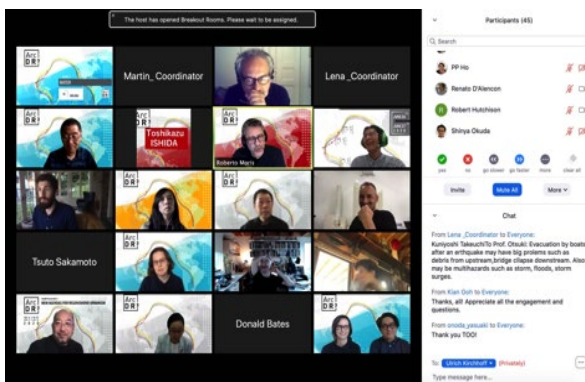
(次頁へつづく)



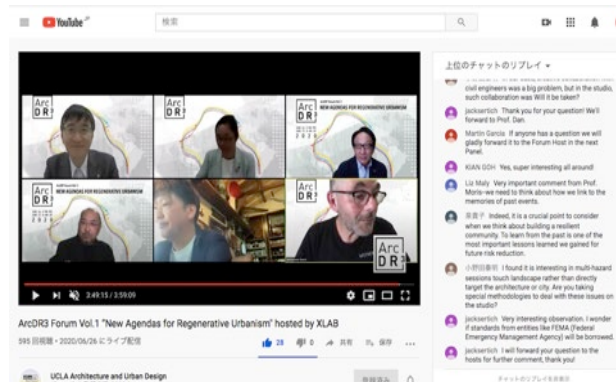
阿部仁史教授の開会の挨拶



今村文彦教授の開会の挨拶



Zoom 内シンポジウムの参加者



Youtube ライブストリーミング配信

関連情報

仙台防災枠組 2015-2030（外務省）；

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/files/000081166.pdf>

ArcDR³ 関係ホームページ

<https://aud.ucla.edu/news-events/news/xlab-arcdr3-forum-vol-1-new-agendas-for-regenerative-urbanism>